

第5回 全国ユース環境活動発表大会 全国大会

〈実施概要〉

日程 令和2年2月8日(土)、9日(日)

会場 8日(土)：国連大学 レセプションホール／9日(日)：ベルサール八重洲

主催 全国ユース環境活動発表大会実行委員会
(環境省・独立行政法人環境再生保全機構・国連大学サステイナビリティ高等研究所)

後援 読売新聞東京本社

協力 環境省地方環境パートナーシップオフィス(EPO)、地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)
ESD活動支援センター

協賛 キリンホールディングス株式会社、協栄産業株式会社、SGホールディングス株式会社、
株式会社タニタ



受賞校のみなさん、おめでとうございます！

全国8会場で行った地方大会で選出された16高校が全国大会に出場しました。

代表高校の発表はいずれもすばらしく、審査を経て環境大臣賞をはじめすべての出場高校に賞が贈されました。
16高校の活動をご紹介します。

環境大臣賞

広島県立世羅高等学校

鯉米

錦鯉廃棄稚魚を活用した鯉米生産を目指して

広島県世羅町は高齢化が進み耕作放棄地が増加している。また、鯉養殖が盛んで毎年廃棄される稚魚はおよそ50トンにものぼる。この2つの地域課題解決に向け、すべての錦鯉の稚魚を活用し、魚堆肥を作ることを考え実験を開始。廃棄される鯉から鯉肥料を製造することができた。鯉稚魚肥料による米栽培「鯉米」も可能。アミノ酸を多く含むおいしい米作りにも貢献できる。



環境再生保全機構 理事長賞

京都府立木津高等学校

ソーシャルビジネス研究班

Kakishibuを世界基準に

木津川市は日本三大渋柿「天王柿」の産地。マイクロプラスチック問題に着目し、「柿渋」を使用する解決プランを考えた。「カキタンニン」は進化していく過程でタンニンが高分子化し耐久・耐水・消臭・防腐・防虫効果などがある天然素材。ビニール袋の替わりに新聞紙を「柿渋」でコーティングした紙袋を作成。現在、企業と柿渋紙袋の大量生産に向けて協議中。



国連大学サステイナビリティ高等研究所 所長賞

青森県立名久井農業高等学校

Treasure Hunters

乾燥地の土壤流失抑制と食料増産のための集水技術の開発

昨年まで東南アジアやアフリカなど発展途上国の肥料での富栄養化による水質汚染、飛散した農薬による水棲生物や人々の健康被害を抑制する研究を行ってきた。西アフリカなどでは降雨が少なく土壤は栄養分が乏しい。そこで今年度は、日本の伝統技法「三和土技術」を応用し、西アフリカなどの乾燥地で雨水を効率よくを集め、食料や環境問題の解決に貢献する技術開発に取り組んでいる。

